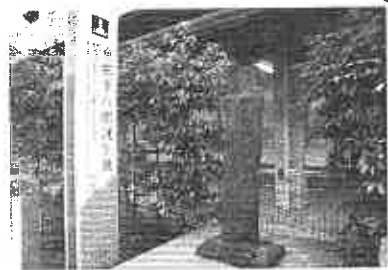


11 本校周辺の環境と加治屋町出身の偉人誕生地



東郷平八郎誕生の碑

（新館建設時に石碑を現在地に移設。
隣接する本校化学実験室内に本来の
誕生の地を示すプレートがある。）

西郷隆盛 (1827年～1877年)

明治維新の元勳。島津斉彬に用いられる。幕末、大久保利通らと討幕運動を指揮し、王政復古を実現。新政府では参議・陸軍大将となる。岩倉遣欧使節団の出発後、政府の中心人物として開明的諸政策を実施するも、征韓論に破れて下野し、のち西南戦争をおこす。

大久保利通 (1830年～1878年)

明治維新の元勳。幕末、西郷隆盛と協力し、藩政改革派の指導者となり、薩長同盟を成立させ、討幕、明治新政府の樹立に尽力。新政府で参議・大蔵卿・内務卿に任ぜられ、版籍奉還、廃藩置県、地租改正等を断行。西郷等の下野後、新政府の中心人物として活躍。

伊地知正治 (1828年～1886年)

幕末薩摩藩の兵学者。西郷隆盛が最も信頼した人物の一人。薩英戦争・禁門の変で軍奉行、戊辰戦争で参謀として活躍。維新後、修史館総裁、宮中顧問官等を勤める。

吉井友実 (1828年～1891年)

明治の功臣。幕末、西郷・大久保らと協力し、討幕運動に東奔西走。戊辰戦争に功あり。維新後、新政府の官吏として活躍。のち日本鉄道会社社長、宮内次官、枢密顧問官となる。

篠原国幹 (1836年～1877年)

西郷隆盛のもとで戊辰戦争に転戦して活躍し、維新後に陸軍少将。征韓論が敗れると西郷に従って下野。西南戦争の薩軍一番大隊長。

村田新八 (1836年～1877年)

明治維新时期に西郷隆盛のもとで活躍。新政府の宮内大丞となる。岩倉遣欧使節一行と欧米を視察巡遊するも、征韓論で敗れた西郷を追って下野。西南戦争の薩軍二番大隊長。

大山巖 (1842年～1916年)

明治維新以来の功臣で、新政府で陸軍卿・陸軍大臣をつとめ、近代的日本陸軍の建設に功あり。臣下で最初の元帥となる。特に日露戦争での満州軍総司令官としての活躍で有名。西郷隆盛の従弟。

西郷従道 (1843年～1902年)

明治維新以来の功臣。西郷隆盛の弟。山県有朋とともに軍制の近代化に尽力。明治の歴代内閣の海軍大臣・内務大臣を勤め、元老・元帥となる。武勳も多し。

黒木為楨 (1844年～1923年)

明治の陸軍軍人。西南戦争以降の戦役で武勳。特に日露戦争で、陸軍大将・第一司令官として満州地方での戦いに大功。のち枢密顧問官に任ぜられる。

井上良馨 (1845年～1929年)

明治の海軍軍人。戊辰戦争で活躍。江華島事件に遭遇。軍艦長として、日本海軍初の欧州巡航に成功。海軍大学の初代校長。各地の鎮守府司令長官を経て、元帥・海軍大将。

東郷平八郎 (1847年～1934年)

明治の海軍軍人で日清・日露戦争で活躍。特に日露戦争では、海軍大将・連合艦隊司令長官として、旅順のロシア艦隊、日本海海戦におけるバルチック艦隊を撃破して名声を上げた。

山本権兵衛 (1852年～1933年)

明治・大正の軍人・政治家。大正時代に二回総理大臣となる。日本海軍の近代化と強化に尽力。日露戦争時には海軍大臣・海軍大将として、事実上の副総理として、政戦両面を指導。

田代安定 (1856年～1928年)

明治・大正の自然科学者、わが国動植物学の先駆者。沖縄・南洋諸島・台湾等の南方植物の調査、研究や栽培に従事して、不滅の業績。著書に「恒春熱帯植物殖育場報告」。